

2024 年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	初級経営学演習 (First-level Exercises in Management) 393121-14-300					担当教員	生島 義英 (イクシマ ヨシヒデ)		
科目区分	専門	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	3 年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL, 資格対応科目								

① 授業のねらい・概要

『マネジメント検定試験』の「Ⅲ級」に合格するためには、1 年次の「経営学」、2 年次の「企業論」・「経営組織論」・「経営管理論」・「経営課題」および経営学関連科目で学習した内容を確実に理解するとともに、試験対策として一定の“テクニック”を身に付けるが不可欠である。

そこで、本演習では毎週過去に出題された問題を解き、理解度を確認する。解けない問題を復習することにより、経営学を理解することに努める。1 年次、2 年次に学修した内容の問題を解くことにより、経営学を体系的に理解できたことの証しとする。なお、本演習の内容は、『マネジメント検定試験』の「Ⅲ級」の試験範囲全てに該当する。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

専門的知識・技能を活用する能力

③ 授業の進め方・指示事項

- ① マネジメント検定試験Ⅲ級の過去問題を解く
- ② グーグルフォームへの入力と自動採点
- ③ 解答結果に基づきできなかった問題の復習
- ④ 全体振り返り

④ 関連科目・履修しておくべき科目

「経営学」・「企業論」・「経営組織論」・「経営管理論」・「経営課題」を履修完了していることが前提となる。

⑤ テキスト（教科書）

経営学検定試験協議会監修・経営能力開発センター編（2023）『マネジメント検定試験公式テキスト（Ⅲ級） 経営学の基本』第7訂、中央経済社

⑥ 参考図書・指定図書

授業中に適宜指示する。

⑦ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安

- (i) 『マネジメント検定試験』の「Ⅲ級」に合格する知識・能力を身につける。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i)『マネジメント検定試験』の「Ⅲ級」に合格する知識・能力を身につける。	検定試験で80%以上得点できる。	検定試験に合格できる。	検定試験問題を50%以上正解できる。	検定試験問題を30%以上正解できる。	検定試験問題を30%未満正解できる。

⑨ 学習到達目標（評価項目）	定期試験（レポート含む）	小テスト	課題	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%	25%			15%		100%
(i)『マネジメント検定試験』の「Ⅲ級」に合格する知識・能力を身につける。	60%	25%			15%		100%
フィードバックの方法	正解率が低い問題について解説し、間違えた原因を学生が把握できるようにする。						

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
「経営学」・「企業論」・「経営組織論」・「経営管理論」・「経営課題」を履修後受講することが望ましい。過去問題演習を重ねるごとに試験のコツをつかみ、復習することにより得点が上昇する。最後まで受講し、試験問題になれることが合格への近道となる。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	イントロダクション	経営学検定初級の実施概要および実施時期を確認する。 問題の全体傾向を把握する。	120 分
2	問題の演習：問題演習① 傾向と対策	問題演習①の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
3	問題の演習：問題演習② 傾向と対策	問題演習②の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
4	問題の演習：問題演習③ 傾向と対策	問題演習③の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分

5	問題の演習：問題演習④ 傾向と対策	問題演習④の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
6	問題の演習：問題演習⑤ 傾向と対策	問題演習⑤の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
7	問題の演習：問題演習⑥ 傾向と対策	問題演習⑥の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
8	問題の演習：問題演習⑦ 傾向と対策	問題演習⑦の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
9	問題の演習：問題演習⑧ 傾向と対策	問題演習⑧の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
10	問題の演習：問題演習⑨ 傾向と対策	問題演習⑨の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
11	問題の演習：問題演習⑩ 傾向と対策	問題演習⑩の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
12	問題の演習：問題演習⑪ 傾向と対策	問題演習⑪の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
13	問題の演習：問題演習⑫ 傾向と対策	問題演習⑫の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
14	問題の演習：問題演習⑬ 傾向と対策	問題演習⑬の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
15	問題の演習：問題演習⑭ 傾向と対策	今までのすべて問題演習の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	180 分

⑫ アクティブラーニングについて
各回の演習において、まずは過去問題を解き、正解を確認後、問題に対する解答のプロセスの理解を深める。わからない問題は、教科書で調べることで内容をより深く覚えることができる。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
昭和 63 年（1988 年）4 月から平成 31 年（2019 年）3 月まで 31 年間民間企業に在籍し、在籍期間中は、情報システム部門においてシステム設計と運用など、物流管理部門において新規仕組みの構築と運用改善・物流教育など、人事労務管理部門において制度設計や法令変更対応、組合との交渉など、総務部門において株主総会・取締役会の事務局運営やコンプライアンスなどの業務に従事した。 実務担当者、管理職、グループ企業の取締役の経験など様々なマネジメントに携わった。

実務経験と授業科目との関連性
実務経験や部門長として管理職経験、グループ企業での役員経験を活かし、実務経験がなく、実務を想像しにくい学生に対して、より実務的に具体的に経営学全般について教授することができる。 検定試験題の内容を具体的に説明することができる。